JAFP
一般社団法人
日本家族心理学会
ニュースレター　No. 62
〒113-0033　東京都文京区本郷 2-40-7YG ビル 5F　　TEL＆FAX　03-3812-1575

Email:　jafp-office@heart.so-net.jp　URL：https://jafp-web.org/

国際家族心理学会 第 10 回記念大会・日本家族心理学会 第 42 回大会　合同開催

国際家族心理学会（IAFP） 第 10 回記念大会・日本家族心理学会（JAFP） 第 42 回大会をここ仙台、東北大学において開催いたします。大会プログラムも充実したものとなるように大会事務局長、準備委員会の先生方と、準備を進めてまいりました。

会期は **2025 年 8 月 9 日(土)から 11 日(月・祝日)**。9 日は 10 時より IAFP のオープニングセレモニーに続けてメイン会場では以下が行われます。

オープニングセレモニー
大会長 若島 孔文
10:00 - 10:30

IAFP 企画シンポジウム I
Zixin Zhong
「Diversified Chinese Families and Family Education」
10:30 - 12:30

IAFP 企画シンポジウム II
Paula Mena Matos
「Adapting to Change: Attachment, Parenting, and Family Dynamics」
13:30 - 15:30

IAFP 企画シンポジウムIII
Gen Takagi
「Family Support through Generative AI: An Innovative Approach to Making a Meaningful Difference」
15:45 - 16:45

IAFP　特別招待講演
Melati Sumari
「Life After Divorce: Issues and Dilemma in a Collectivist Society」
17:00 - 18:00

10 日は、IAFP と JAFP による大会記念講演が行われます。その後、JAFP のシンポジウム、研究発表（ポスター)、そして、懇親会が行われます。懇親会の前の時間には、日本文化体験イベントを計画しております。

大会記念講演 Christy M. Buchanan 「What's Culture Got to Do with It? Exploring Parenting and Parent-Child Relationships during Adolescence」 10:00 - 12:00
次世代を担う会員の会 企画シンポジウム 12:15 - 13:15
日本家族心理学会 企画シンポジウム 「共働き社会が当たり前となる社会の子育てと家族サービス（家事・育児）の在り方 ―家族と教育の未来を見据えて―」 13:30 - 15:30
大会準備委員会企画シンポジウム 「人口と家族」 16:00 - 18:00
日本文化の体験イベント 18:00-18:30
懇親会・交流会功労賞・奨励賞表彰 18:30 - 20:30

11 日は、JAFP による事例発表、そして対面ワークショップとして以下が行われます。

ワークショップ①	ワークショップ②	ワークショップ③	ワークショップ④
新谷 宏伸 先生 「解離症の治療と家族のサポート」 13:00～16:00	吉田 沙蘭 先生 「がん等身体疾患をもつ患者とその家族のサポート」 13:00～16:00	北島 歩美・数井みゆき 「アタッチメント理論と臨床的応用」 13:00～16:00	長谷川 啓三 「ジェンダーの視点からの統合の必然：ブリーフセラピー、MRI と SFA」 13:00～16:00

なお、この大会は、ハイブリッド形式で、オンデマンドコンテンツ（研究発表（口頭）、自主シンポジウム、ワークショップ）は、8 月 9 日(土)～8 月 31 日(日)17 時まで公開予定です。

皆様にはぜひ仙台にお越しいただければと願っております。仙台は東京から新幹線で約 1 時間半、仙台駅から東北大学川内キャンパスは地下鉄で約 7 分です。この時期は東北では七夕祭りを含めて夏祭りが開催される時期です。宿泊先などぜひお早めに確保していただけたらと思います。また、近隣には、秋保温泉、作並温泉などもありますので、宿泊の際、参考にしていただければと思います（大会ホームページに随時情報を UP しています)。
参加者の皆様が楽しめる大会を目指して、準備してまいります。学会員の皆様にはぜひ本大会にお越しいただき、有意義な時間をお過ごしいただけたらと考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。

国際家族心理学会 第 10 回記念大会・日本家族心理学会 第 42 回大会
大会長　若島孔文
副大会長　平泉　拓
大会事務局長　高木　源

大会ホームページ　https://jafp2025.iafp2025.com

第 41 回大会を終えて

～「君も大会事務局長にならないか～？」～

奥山滋樹（鈴鹿医療科学大学）

会員の皆様方。

第 41 回大会の準備委員会事務局長を務めました、鈴鹿医療科学大学の奥山です。

今大会はコロナ禍以降の大会同様、対面(10 月 12 日～14 日)およびオンライン(10 月 12 日～11 月 30 日)のハイブリッドでの開催となりました。当初の想定を上回る、270 名の方々に参加を頂きました。私の拙さ故、大会運営上でご寛恕いただくこともあったのではないかと思いますが、ご参加をいただきましてありがとうございました。

また、各種プログラムでご講演、ご登壇をいただきました先生方、発表者の方々におかれましてもご活躍をいただき、誠に感謝申し上げます。大会が充実したものとなったのは、出役の役割を担っていただいた各先生方の活躍に帰する部分が大であったと確信しています。

…まだ役割が抜けていないのか、勢い硬い文体となってしまいました。現在、この文章は土曜夜のサイゼリヤでワイン(デキャンタ 500ml)を飲みながら書いているのですが、まだアルコール量が足りていないのかもしれません。今、生ハムとワイン(デキャンタ 500m)の追加オーダーをしました。

さて、本稿では私が大会事務局を務めてみて、「思うところ」について書いてみたいと思います。恐らく、大多数の会員の方は「大会事務局って何をするのだろうか」という印象をお持ちではないでしょうか。もっと率直に言えば、「いや、全然イメージないなぁ」という感じではないでしょうか。

実際、私もそうでした。大学院生の頃に在籍校で家族心理学会や他学会の開催に立ち会うという経験はありましたが、今回ほどの全身的なコミットをするものではありませんでした。そのため、自分が今回のような役割をするとは思っていませんでした。

ですが、他の人生の様々な出来事同様、学会開催はある日突然あなたの人生に降りかかってきます。恋人から別れを告げられるとか、投資信託が買った瞬間から値崩れするとか、愛車のエンジンが焼きつくとか、マンションの自治会役員に選出されるとか、そういったことが起こる確率と本質的には同じ程度で起こり得ます。なので、皆様におかれても突然の大会事務局長に任命されることに備えていただきたく、本稿では「今大会の場合は」という注釈付きでその役割について書かせていただきます。

Ⅰ.「お前が舵を取れい！」～長渕剛『Captain of the Ship』より～

今回は表向きでは大会事務局として大会長、事務局長、事務局員の複数名体制で準備から開催を進めてきました。とは言いつつも、実際に全体像を描いて、具体的なアクションやプランを立てるのは私の役目ではありました。

具体的には講演、シンポジウム、各ワークショップの企画と調整、HP と一号通信の作成、メール対応、協賛企業や団体とのやりとり、スケジュールと教室の確保、オンライン開催のための段取りと打ち合わせ、必要物品の購入、各種広報活動などなどが挙げられます。

他のメンバーにお願いできる作業は渡しつつ、どの作業はお願いでき、どの作業はできないのかを見極める必要があります。例えば、名簿や参加証作りや印刷物のコピーなどの事務作業はお願いしやすいのですが、メール対応や各種の調整や依頼などの判断が必要となる役割を代理で担うことは難しいわけです。

また、大会運営については学会本体から独立したかたちで大会事務局が主体を担いますしかしながら、全くの独立性があるかというとそういう訳ではなく、学会としてのフォーマットや約束事といったことがあります。つまり、私は舵取りを担う Captain ではあるのですが、動かしている Ship は会員の皆様のものであって、私のものではない訳です。つまり、全体のバランスを見ながらの舵取りが求められるわけです。

私は大学の授業や会議などの仕事を終え、夜中の研究室で作業をすることが主でした。そうすると、どこからともなく長渕剛が「ヨーソロー、ヨーソロー、ヨーソロー」と私を喝破する声が聞こえてくるようになりました。

Ⅱ.「俺はいいけど、YAZAWA はどうかな？」～矢沢永吉 あるラジオ番組での発言より～

ここまで書いてきたように、大会事務局は舵取りをしつつ、同時に様々なバランスを大切にしながら作業を進めていきます。その過程では数多くの判断が求められます。

なかには、その時点では確定的なことが言えない類のものもあり、走りながらも「とりあえず」というかたちで一時的な判断を下すことも少なくありませんでした（もっと計画的にやれば、そうならないのかもしれませんが）。この時の判断の影響を被る対象が自分だけであるならば大したことではないのでしょう。例えば、店員に勧められるままに 10 万円で買ったコートが思いのほかに似合わなかったとしても、それは私が後悔するだけで済みます（また、メルカリに出せば幾分か戻ってきます）。ですが、大会の事となると、その影響範囲が大きく異なります。

本当は誰かに決めて欲しいけれども、結局は私が暫定的に決めざるを得ない。そして、そのことで判断を誤った時には多くの人に差し障りが生じる。こういう時、私は自我を二分して考えざるを得なくなるわけです。すなわち、「俺（大会事務局）はいいけど、××××（その時々のステークホルダー）はどうかな？」と。かの矢沢永吉は、この名文句を「自分は本当は断りたいけど、直接伝えるとカドが立つ」という場面で洒脱に使っていたようです、私が使うと急に中間管理職的な味わいが出てきます。言葉というのは使う人や状況によって意味が変わってくるものですね。

Ⅲ.「元気ですかー！？」～アントニオ猪木 マイクパフォーマンスより～

唐突ですが、皆さんは一年間に何回くらい風邪を引きますか？

私は今年度 4～5 回程度風邪を引きました（なかには風邪ではなく、別のものもあるかもしれませんが）。これは人生のなかで年間最多レコードを更新するものであったと思います。そして、何なら最近も体調が悪いです。つまり、何を言いたいかというとハードワークは体調とトレードオフの関係にあるのではないかということです。幸いにも大会直前や対面期間中に体調を崩すことはありませんでしたが、もし体調を崩していたらと考えると恐ろしいものがあります。実際、大会直前や期間中に

私が体調不良に陥ると、その代わりを担う人がいないという状況だったため、「倒れないこと」も重要な仕事となりました。

私は大会まで残り一カ月に迫った辺りから、毎朝晩に養命酒を飲むことを習慣づけました。この時期は学会準備に加えて、大学の後期開始も重なり、更には 4 年生の卒論指導、外部の学会でのシンポジウムなどの仕事を抱えていました。中年期のプライベートでの問題を抱えていなかったのは幸いでした。

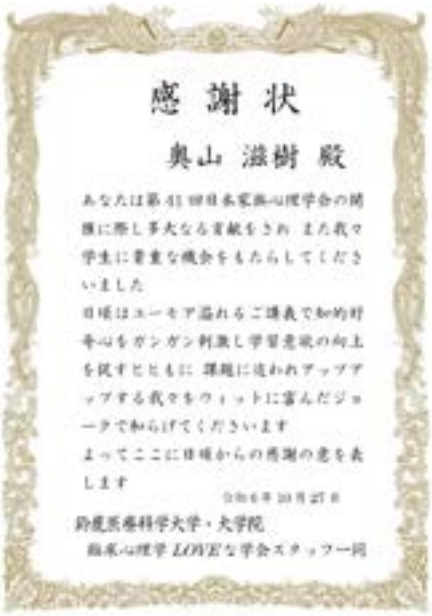
アントニオ猪木のように「何でもできる」と断言できるほどではありませんが、ある程度の体調を維持することが出来れば、多少の怠惰さと能力の不足と人格的な偏りがともなっていたとしも、事態を破綻させるまでにはならない。当たり前のことでしょうが、大変な仕事をする時には案外に当たり前のことが大切になると思いました。

さて、ここまで長々と書いてきましたが、これはあくまでも私の今回の経験にもとづいたものです。私よりも遥かに優秀で勤勉な方であれば、もっとスマートに物事を進めることも出来るのでしょう。しかしながら、学術団体としての持続可能性という観点からは、私のような凡人でも大会の主催に関わることが出来るということは重要ではないでしょうか。

特に、これまで「いや、自分は関係ないわー」と感じていた、そこのあなた。あるいは、「こんな奴でも大会事務局長」が出来るんだなと思っている、あなた。そうした方々にこそ、より大会の開催と運営について身近なものに感じていただくとともに、担い手の側になっていただけると良いのではないかと思っています。

最後にドラマ「池袋ウエストゲートパーク」の劇中の名文句を模して、本稿を終えます。

「君も大会事務局長にならないか～？」



感謝状

奥山 滋樹 殿

あなたは第41回日本家族心理学会の開催に際し多大なる貢献をされ また我々学生に貴重な機会をもたらしてくださいました

日頃はユーモア溢れるご講義で知的好奇心をガンガン刺激し学習意欲の向上を図りとともに 課題に追われアップアップする我々をウィットに富んだジョークで和らげてくださいます

よってここに日頃からの感謝の意を表します

令和6年10月27日

鈴鹿医療科学大学・大学院

臨床心理学 LOVE な学会スタッフ一同

第 41 回大会　フォト

学会裏方奮闘記

鈴鹿医療科学大学大学院　修士２年　古川真由美

まずは何より、第 41 回日本家族心理学会の開催にスタッフの一員として携わらせていただいたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。開催側から学会を経験できたことは、時が経ち興奮がおさまった今ふり返ってみても、最初で最後の貴重な機会だろうと確信いたします。

遡ること 2 年前。新たに家族療法の先生が本学に赴任されるとのニュースを耳にしたのは年明けの今頃(筆を進める現在、1月上旬)でした。どのような先生が来ていただけるのかと胸を高鳴らせていたところ、今回、大会実行委員長を務められた奥山先生が鈴鹿の地に Peugeot を走らせ、颯爽と姿を現されました。新年度、東方の風を纏い着任された奥山先生は、飄々とした雰囲気、ユーモアあふれる語り口で、ひと月も経たぬうちに学生たちの心を捉え、魅了されました。我々学生は、知的好奇心を提供いただく奥山先生の講義を楽しみにすると同時に、後日笑顔で提示される手ごたえある課題に、畏れ１割、やりがい９割で臨んでまいりました。自身の修士 2 年間をふり返りましても、奥山先生がご縁をお運びいただいた本学での学会開催は、最も印象深いエピソードとなりました。

かつては有機化学の世界から学問の扉を開き、合成や測定に明け暮れた青年期を過ごしましたが、40 代に入り全くの畑違いである心理の世界に足を踏み入れました。放送大学の対面授業にて、今回、大会長を担われた渡部先生と出会ったことをきっかけに、本学へ編入し、腰を据えて臨床心理学を学び始めました。心理学の基礎研究の面白さに加え、大学院に進んでからはケースを担当するなかで、臨床心理学の奥深さに惹きつけられております。今回の学会では、何より人の温かさと繋がりの大切さを感じました。人生の折り返し地点にいただいた素敵なご縁を胸に、新たな領域での歩みを進めてまいります。心理の初学者の一員として、何卒よろしくお願いいたします。

後藤　みさき

４月に大学院に入学し、初めての学会！初めての学会運営への参加！まさかこんな素敵な経験をさせてもらえるなんて！と、わくわくしたことを今でも思い出します。

当日は受付業務を担当させていただく中で、様々な部門で予期せぬことが起こることもありましたが、特にスタッフ間では担当部門に関係なく情報共有を密にし、何かあれば動ける者がフォローすることで、皆で協力して乗り超えることができたと感じています。そこに至れたのは、奥山先生が、私たち学生を信じて任せてくださったからこそ、ひとりひとりが自分のやるべきことを自覚し、困った時には協力しながら、運営に携わることできたのだと感じております。私たち学生の成長を信じ導いてくださった奥山先生には感謝の気持ちでいっぱいです。また、会期中には、学会事務局の方が、私たち学生を気にかけ、フォローしてくださったことで、私たちも積極的に行動することができましたこと、お礼申し上げます。

鈴鹿医療科学大学　医療科学研究科　医療科学専攻　１年　片岡廉

僕はスタッフという立場ではありましたが家族心理学会が初めての学会参加で非常に楽しかったです。いろいろわからないことばかりで、ちょっとしたトラブルもありてんやわんやしましたが奥山先生の適切な指示で無事に終えることができました。僕たちの大学は社会人の方も多く、今まで院生同士の交流もあまりありませんでしたが、学会スタッフとして協働したことでその人となりを知ることができ、絆が深くなったように思います。個人的に非常にありがたかったこととして少しだけ学会後の飲み会に参加させていただいたことです。先生方のお話を聞かせていただいて、知識不足で話についていけなかった部分もありましたが、自分の視野が広がったように感じました。また、今後も力のある心理師になれるように頑張っていこうというモチベーションがわきました。三日間ととても短い時間ではありましたが、非常に多くの学びを得ることができたように思います。来年の学会はスタッフという立場ではなく、一参加者として参加したいと思います。長髪の男で目立つと思うので、学会で見かけた際は声をかけていただけると嬉しく思います。改めまして、奥山先生、参加していただいた皆様ありがとうございました。

鈴鹿医療科学大学　大学院　１年大矢愛里

「家族心理学会での初めての経験」

家族心理学会で初めて学会のスタッフとして学会の運営にかかわらせていただきました。「どうなるんだろう」と不安を抱えながら、当日を迎えました。

不慣れなことも多く、戸惑う場面もありましたが、その都度周囲のスタッフや関係者の方々に確認しながら、状況に応じて柔軟に対応するよう心がけられるようになりました。特に、伝達事項を各自が受けた際に全体に共有し、スムーズな運営に貢献できるよう努めました。この経験を通じて、その場に応じた対応力の重要性を改めて実感しました。

また、周囲の方々と交流する機会にも恵まれました。初めは話しかけることに緊張していましたが、徐々に慣れ、自分から声をかけることができるようになりました。その中でも印象深かったのは、ある方から「資料はありますか」とご質問をいただき、その対応をした後、交流会で再びお声がけいただいたことです。そのご縁がきっかけで会話が弾み、お互いのことを知る貴重な機会となりました。それまで大学内に限られていた自分のつながりが、一気に外へ広がったように感じ、とても嬉しかったです。

学会スタッフとしての活動は初めてで戸惑うことも多かったですが、多くの方と関わる中で、新しい発見や学びがたくさんありました。このような貴重な機会をいただきました奥山先生をはじめ、家族心理学会の皆様に心より感謝申し上げます。

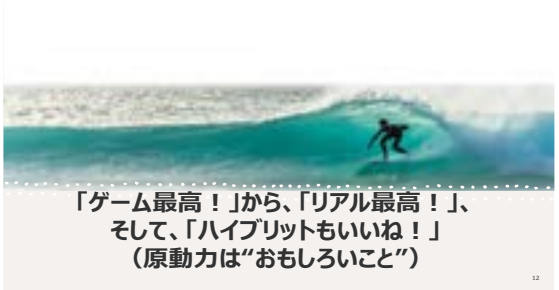
近況と短期療法の実践(ファミリー編)のご紹介

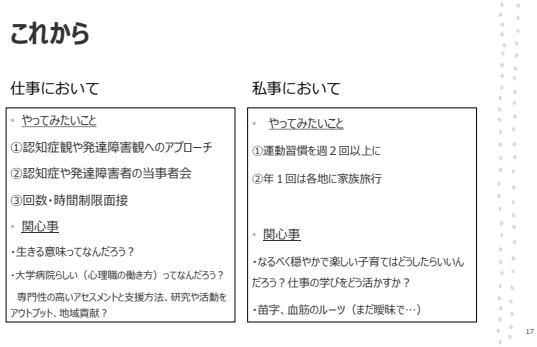
会津医療センター心身医療科　心理判定員　檢木雄史

今回は、前回(2024 年 4 月 NL)後の近況と短期療法の実践について記させていただきます。

1. 近況報告

転職して 1 年半が経過しました。今年の 3 月末には、職員向け院内カフェという催しにて、『心理職(臨床心理士・公認心理師)の仕事と私事～これまでとこれから～』というテーマで、発表させていただきました。平日の日中ということもあり、少人数の参加者で同部署の方がほとんどでしたが、私自身の良い振り返りの機会となりました。また、本当にいろいろな方のご縁で今に至っており、人に恵まれているということも再認識しました(参考までに発表スライドを2つ抜粋)。発表後の質疑応答にて、研究活動も推奨されていると感じましたので、できそうなところから少しずつ準備を始めております。





2. 短期療法の実践(ファミリー編)

短期療法を学ぶ会・福島支部では、令和 6 年度より、「ちょっとうまくいった成功事例」の共有を始めております。仙台支部から学んだ方法であり、長谷川啓三(2005)の『ソリューション・バンク』(いじめや不登校など子どもたちの問題解決のため、心理学者や医師、カウンセラー、教師たちによる「問題解決事例のネットワークデータベース」)、小野直広(1998)の「より実用性に重きをおくことにした」『107 錠のこころの即効薬』を参考にしております。学習会で開始しておもしろかったのは、1 つ成功事例が語られ、そのことを短期療法の文脈で検討してみると、その後、別の参加者からも次々と成功事例が語られるようになった現象でした。扱ったのが成功事例であることはもちろん、“ちょっとうまくいった”が、思い出しやすく、発言しやすくなるポイントなのかもしれません。今回は、小生自身の家族への実践 2 例を紹介させていただきます。

[①中々お風呂に入らない子どもたち]:両親から子に、「寝るのが遅くなるから、そろそろお風呂入ろうね」と声をかけるも、テレビやスマホ視聴等に夢中で返事がない。そこで両親がその部屋の電気を少し暗くし、何も言わずに先にお風呂に入ることにした。すると、長子が次子に、「お風呂でお祭りしよー」と声をかけ、下の子が「うん」と答え、二人でお風呂場へ来て入浴した。父は、次子に気づかれないよう、長子に小声で、「さすがだね」と伝え、小さくタッチをした。

[②怪我の功名]:長子は指吸が治らずタコができていた。両親から「歯がへこんだりするから指を吸わないように」伝えたり、指吸している時にその指をもんであげたりするも治らなかった。ある日、長子が遊具で滑り、歯を強く打った。そのため、父が休日当番医であった歯医者に連れていき、歯を診てもらい、「少し揺れが強い等の症状があり、経過を見ないとどうなるかわからないこと」を告げられた。その後、長子は指で歯を触ろうとするしぐさをすると、両親は、「歯、打ってるから触らない方がいい。指吸もしない方がいいね」と数回伝えると、以後、歯を触ることも指吸もしなくなった。結果、歯は問題なくなり、指吸もしなくなり、タコもいなくなった。

研修のご案内

✿ 2025 年度研修会のご案内 ✿

一般社団法人日本家族心理学会研修委員会では、2025 年度「家族支援にかかわる理論」をテーマに年６回、研修会を開催いたします。

家族心理学会主催の研修会のお知らせです。2025 年度は「家族支援に関わる理論」として６回の研修会を計画しています。第１回～３回はライブ配信+録画視聴、第４～６回は対面研修会となります。現在、家族心理士・家族心理士補・家族相談士の有資格者の方は、１ 研修会につき、２ポイント取得できます。日本家族心理学会の会員ではない方も申し込みができますので、ポイント取得をしたいと思う方、ご参加をお待ちいたしています。また、臨床心理士ポイントも申請予定です。各研修会の詳細については、ホームページに、随時アップいたしますのでご確認願います。

本研修会の受講は「**家族心理士補**」の資格取得につながります。「家族心理士補」へのスキルアップを目指している方は、ぜひご参加下さい。

第1回	ヤングケアラーと家族	6/8 (日) 10:00-16:00 講師：奥山滋樹・土田幸子
第2回	LGBTQ と家族ライフサイクル	7/27 (日) 10:00-16:00 講師：岡本吉生・岩﨑徳子
第3回	夫婦・親子関係の生涯発達心理学 ー実証研究の課題と展望	9/28 (日) 10:00-16:00 講師：宇都宮博・神谷哲司
第4回 (対面)	ペアレント・トレーニング ～発達支援と家族支援 家電会館	12/7 (日) 10:00-16:00 講師：中田洋二郎・喜多見学
第5回 (対面)	トラウマを抱えた家族の支援 家電会館	2026年2/15 (日) 10:00-16:00 講師：遊佐安一郎・平岡篤武 西田泰子・中垣真通・菅沼　文
第6回 (対面)	夫婦・家族合同面接の実際 CIVI研修センター新大阪	2026年/3/15 (日) 10:00-16:00 講師：北島歩美・大町知久

- 参加費：家族心理士・家族心理士補・家族相談士・学会員：8000 円（各資格の登録番号が必要です）
- 研修証明書：研修証明書発行について、第１回～第３回は、受講後アンケートへの回答が必須となります。
- 問合せ先：下記メールアドレスまでお問い合わせください。
- 各研修会の詳細・申し込み方法：４月以降ホームページに、随時アップいたしますのでご確認願います。

一般社団法人日本家族心理学会研修委員会事務局

E-mail　training@jafp-web.org　URL　http://www.jafp-web.org

【次世代を担う会員の会　リレートーク企画】

次世代を担う会員の会とリレートーク企画の紹介

東北福祉大学　高木 源

みなさんこんにちは。東北福祉大学講師の高木源です。私たちは現在、家族心理学会の若手が連携しあえる集いを目指して、若手で構成される次世代を担う会員の会を運営しています。次世代を担う会員の会では、2021 年度の発足を経て、現在は 20 名弱の次世代を担う会員が参加しています。2023 年度からは、若手間の交流を促進するために、臨床に関する交流会を 2 ヶ月に一回、研究に関する交流会を 2 ヶ月に一回のペースで実施しました。いずれの交流会も毎回 5～10 名程の若手が参加し、それぞれの悩みや工夫を共有したり、臨床や研究について議論を交わしたりしています。2024 年度も交流会の開催や学会での企画など、積極的に活動を行っていく予定となりますので、若手および学生の皆様におかれましては、下記の QR コードから是非とも本会にご参加いただけますと嬉しく思います。

お申し込み用メールアドレス：jafp22next@gmail.com

また、本会では、2022 年から、家族心理学会のニュースレターの中でリレートーク企画を行なっております。この企画では、家族心理学会の次世代を担っていく若手がリレー形式で、バトンを繋ぎ、家族心理学会での思い出、それぞれの研究や実践、悩みなど、自由な形で様々なトピックを共有していきます。この企画を通じて、若手のことを少しでも知っていただけましたら嬉しく思います。

今回は、第三弾ということで、八王子市教育センターの廉睿隣先生からリレートークを頂戴します。ぜひご一読いただけますようお願い申し上げます。

【次世代を担う会員の会　リレートーク企画】

家族心理学会に参加して

八王子市教育センター　　廉 睿隣

現在八王子市で心理相談員、神奈川県スクールカウンセラーをしております廉睿隣と申します。次世代を担う会員の会で定期的に開催されている「臨床に関する交流会」の中でリレートークのお話があり、今回担当させていただくことになりました。

私が家族心理学会にはじめて参加したのは、宇都宮で行われた第 34 回大会です。ポスター発表のお作法も、学会の様子も分からないまま「ポスター発表が上手くいけば、一番好きな食べ物の餃子をいっぱい食べられるよ」という先生の甘いお言葉に誘われ、参加したのを覚えています。ポスターの横に立ちながら、大勢で参加している研究室や院生を見て心細くなっていたところに、声をかけてくださった先生方や他大の同期がいてくださったことが本当に心強かったです。それからは学会にゼミの後輩たちと参加したり、学会を通して顔見知りになった方々とお話したりすることが本当に楽しく、現場に出てからは大きな励みと刺激になっていきました。

私は大学院修了後、最初の 2 年間児童養護施設の生活場面に入る心理職として勤務していました。頻発する問題行動とコロナ禍のイレギュラーな対応の前では、私の力量不足もあり、大学院で学んだ臨床心理学的知見や専門用語を何一つ現場に還元できず、落ち込むことが多かったです。しかしながら、家族心理学の考え方は多職種で構成されているチームの中でも用いやすく、「誰がこの問題に困っているのか」「この問題が起きなかった対応は何か？」「その対応はどうやったら増やせるのか？」と行き詰まった会議に解決のための糸口を与えてくれました。定期的に届く学会誌、年に 1 度参加する学会、参加した WS の資料の中にたくさんのヒントが詰まっていました。

それから転職して 4 年目を迎えようとしています。様々なオリエンテーションを持った同僚と働くことで、見立てや介入について多角的に考えられ、学びの日々です。そのような中で、定期的に「臨床に関する交流会」に参加することは、純粋に「やっぱり家族心理学って面白いな」と思わせてくださいますし、それぞれの現場での工夫してきたことを聞くことで気づきを得たり、困りごとを共有できることで安心感を抱いたりしています。同僚からは、「学会にこんなに楽しそうに参加している人今まで見たことない」と言われています。それは、次世代を担う会員の会の皆さんはもちろん、声をかけてくださる先生方がいてくださるからだと思っています。

これからも、はじめて学会に参加したときに教わった「学会は学んで、ご当地の美味しいものを食べる場」というマインドを忘れず、自分自身の学びのためにも、積極的に参加し続けられたらと思います。

事務局通信

会員の皆様、インフルエンザの猛威、そしてコロナも再猛威と、まだまだ感染対策が必要な状況ですが、お元気でお過ごしのことと思います。北海道では馬コロナウイルスも流行したようで、もはや人間だけでなく、生きとし生けるもの全てに感染対策が必要なご時世となりました。

2024 年度の年次大会も、遠路はるばる、たくさんの会員様にご参加いただき、心から感謝いたしております。ここ数年、対面でご参加いただく方が多くなり、大会会場の受付では、たくさんの会員さまにお目にかかることができました。大会は事務局と会員様と実際にお会いできる場所です。どうぞお気軽にお声がけいただき、学会へのご質問等がございましたら遠慮なくお尋ねください。また、学会への対面参加では、その土地の名産を楽しむのも醍醐味です。今年の仙台は牛タン、笹かまぼこ、喜久福、お土産には萩の月等など、ご当地のおいしい食べ物、美酒、近隣の松島観光もお楽しみいただけます。

さて、「新年度会費のご案内」を皆さまにお届けする時期になりました。郵送にて「新年度会費のご案内」をお送りしております。2024 年度は、会員様個々の現在の登録情報をお知らせしました。その結果、ご住所・所属先・メールアドレスのご変更等、たくさんのご連絡をいただきました。

ご協力ありがとうございました。ただ、現在も、あて先不明の方、メールも学会からのご連絡が届かない方がいらっしゃいます。学会では会員の皆様に一斉メールをお送りいたしますので、フリーメールをご利用の方は、迷惑メールとして受信される場合もあるようです。

アドレス登録は、ホームページの会員登録ページにてご自身で入力できます。添付資料のメールが受信できるアドレスを、ご登録いただきますようお願いいたします。

登録内容の変更、追加などもFAXでも受付いたしております。（会員専用FAX　03-5384-5273）。教育現場ではFAXは廃止の方向で動いておりますが、当学会は多様な会員様との連絡手段を確保すべく、廃止は致しませんのでご安心ください。

HPの会員管理システムへのアクセスは，ＩＤ・パスワードにてログインする必要があります。**会員ＩＤは，学会からお送りしている封筒の宛名ラベルに記載されている5290から始まる８桁の会員番号です。**パスワードがわからない方は，事務局までお問い合わせ下さい。

一般社団法人　日本家族心理学会事務局
〒113－0033　文京区本郷 2-40-7 YG ビル 5F
TEL：03-3812-1575 火曜・金曜日のみ
事務局長　浅井継悟　　事務局員　谷口真知子

ご寄稿いただきありがとうございました！　（編集長　東本愛香🐰）

発行年月日:2024 年４月３日（アップロード）
発行者：〒113-0033　東京都文京区本郷 2-40-7 YG ビル５階
一般社団法人日本家族心理学会
代表者　佐藤　宏平
TEL&FAX 03-3812-1575
(c)著作権：(2023)日本家族心理学会